



Dying Gasp の設定

このドキュメントでは、Dying Gasp 機能について説明します。この機能は、突然の停電をホストプラットフォームに報告するために、SNMP、Syslog、またはイーサネットの運用、管理、保守（OAM）を介して Dying Gasp メッセージを送信するために使用されます。

- [Dying Gasp の設定に関する制約事項](#) (1 ページ)
- [Dying Gasp の設定について](#) (1 ページ)
- [Dying Gasp の設定方法](#) (2 ページ)
- [Dying Gasp の設定例](#) (3 ページ)
- [Dying Gasp に関するその他の参考資料](#) (4 ページ)
- [Dying Gasp の機能履歴](#) (4 ページ)

Dying Gasp の設定に関する制約事項

- この機能は、ギガビットイーサネットダウンリンクポートを備えたスタンドアロンスイッチでのみサポートされます。
- イーサネットの運用、管理、保守（OAM）は、Catalyst 1000 シリーズスイッチではサポートされていません。

Dying Gasp の設定について

ここでは、Dying Gasp について説明します。

Dying Gasp の概要

Dying Gasp は、リセットまたは電源障害によりデバイスがダウンしようとしているときに生成される信号/アラートです。システムは、電源障害が発生した後、管理者またはユーザに通知する Dying Gasp メッセージを送信するために十分な残存電力を保持します。ネットワークデバイスは、グレースフルシャットダウンと Dying Gasp メッセージの生成を可能にする、コン

デンサでの一時的なバックアップ電源に依存しています。この一時的な電源は、これらのタスクを実行するために、10～20ミリ秒持続するように設計されています。

Dying Gasp パケットは、**dyling-gasp** コンフィギュレーション コマンドを使用してホストを設定すると作成されます。**show dying-gasp packets** コマンドを実行すると、作成されたパケットに関する詳細情報が表示されます。

SNMP Dying Gasp メッセージの SNMP サーバは、**snmp-server host** コマンドを使用して指定します。Syslog Dying Gasp メッセージを送信する Syslog サーバは、**logging host hostname/ipv6address transport udp** コマンドを使用して指定します。

Dying Gasp パケットは、通知タイプごとに最大 5 台のサーバに送信できます。

Dying Gasp の設定方法

ここでは、Dying Gasp の設定方法について説明します。

Dying Gasp の設定

Dying Gasp 通知をイネーブルにするには、次の手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	dyling-gasp primary {ethernet-oam snmp-trap syslog} secondary {ethernet-oam snmp-trap syslog} 例： Device(config)# dyling-gasp primary syslog secondary snmp-trap	Dying Gasp プライマリ通知をイネーブルにします。 • ethernet-oam : イーサネット OAM 通知をイネーブルにします。 (注) このキーワードは、Catalyst 1000 シリーズ スイッチではサポートされていません。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • snmp-trap : SNMP サーバに送信されるトラップ通知をイネーブルにします。 • syslog : システムロガーをイネーブルにします。 • secondary : Dying Gasp セカンダリ通知をイネーブルにします。
ステップ 4	exit 例 : Device(config)# exit	グローバル コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	show dying-gasp status 例 : Device# show dying-gasp status	(任意) Dying Gasp の設定を表示します。

Dying Gasp の設定例

ここでは、Dying Gasp の設定方法の例を示します。

例 : Dying Gasp の設定

次に、SNMP トラップをプライマリ通知として設定し、syslog をセカンダリ通知として設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# dying-gasp primary snmp-traps secondary syslog
```

次に、**show dying-gasp status** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show dying-gasp status

Dying Gasp Configuration
SNMP Trap Enabled
Syslog Enabled
Ethernet OAM Disabled
```

次に、**show dying-gasp packets snmp-trap** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show dying-gasp packets snmp-trap

SNMP Trap packet for server 10.1.1.2, link type IP
Interface, via GigabitEthernet1/0/0, local IP address 10.2.2.9
```

```

Encap type is ARPA, local hardware address 0022.bdd4.2f48
Next hop IP address 10.2.2.8, next hop hardware address 0000.0c07.ac09
SNMP Trap packet for server 10.1.1.4, link type IP
Interface, via GigabitEthernet1/0/1, local IP address 10.2.2.7
Encap type is ARPA, local hardware address 0012.001a.2f08
Next hop IP address 10.2.2.8, next hop hardware address 0cd0.0c02.ac10

```

Dying Gasp に関するその他の参考資料

関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
この章で使用するコマンドの完全な構文および使用方法の詳細。	Consolidated Platform Command Reference, Cisco IOS Release 15.2(7)Ex (Catalyst 1000 Switches)

Dying Gasp の機能履歴

次の表に、このモジュールで説明する機能のリリースおよび関連情報を示します。

これらの機能は、特に明記されていない限り、導入されたリリース以降のすべてのリリースで使用できます。

リリース	機能	機能情報
Cisco IOS リリース 15.2(7)E2	Dying Gasp	Dying Gasp は、リセットまたは電源障害によりデバイスがダウンしようとしているときに生成される信号/アラートです。

Cisco Feature Navigator を使用すると、プラットフォームおよびソフトウェアイメージのサポート情報を検索できます。Cisco Feature Navigator には、<http://www.cisco.com/go/cfn> [英語] からアクセスします。